様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１４６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ０２５８４

研究課題名（和文）初任保育者の乳児に対する子ども観と保育に関する縦断研究

研究課題名（英文）A Longitudinal Study of Beginning Childcare Teachers' views of Children and Care for Infants

研究代表者
中川　愛（NAKAGAWA, Ai）

奈良教育大学・家庭科教育講座・准教授

研究者番号：３０４４６２２３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，乳児保育を担当する初任保育者の子どもの捉え方や保育意識を明らかにし，子ども観や保育観の形成に影響を与えている要因について検討を行った。
保育実習を経験した学生や初任保育者は，子どもとの関わりの中で，子どもの「かわいさ」を感じており，その気づきは，保育者の経験により変化がみられる可能性があった。また，初任保育者の保育意識は，愛着形成を基盤とした子どもとの関係性の中に現れる傾向にあり，乳児保育特有の複数担当制も，心の安心感につながっている可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究における学術的意義は，これまであまり重要視されていなかった子どもの「かわいさ」への捉えが，学生や初任保育者の子ども観や保育観にポジティブな影響を与えていること，また，初任保育者の保育意識は，愛着形成を基盤とした子どもとの関係性の中で現れ，担当保育者間で，保育について語り合う風土が，心の安心感となっており，初任保育者の保育観の形成に影響を与えている可能性を示すことができたことである。
これらの結果は，保育者養成教育のあり方や，保育者の早期離職の防止，保育の質の向上に向けた研修のあり方など考えるうえでも重要な意義をもつと考える。

研究成果の概要（英文）：In this research, we studied how childcare teachers perceive young children and childcare in the beginning of their career. We also examined the factors which influence the development of their understanding of young children and childcare.
Students and beginning childcare teachers often found children in their care “kawaii”. That simple feeling of kawaii grew deeper and gave them new insights into children and childcare as their career advanced. We also found beginning childcare teachers' attitudes toward childcare developed based on a sense of attachment formed through daily interaction with children. The multiple homeroom teacher system unique to infant care was also linked to a sense of emotional security for teachers.

研究分野：子ども学および保育学関連

キーワード：初任保育者　乳児　子ども観　保育観　かわいさ　保育環境

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

現在，我が国の少子化対策・保育所入試待機児対策は，乳児保育（3 歳未満児保育を示す）の「量的拡大」を目指している。新子育て安心プランでは，令和 3 年度から 4 年間で約 14 万人分の保育の受け皿を整備する計画である。一方で，地域型保育事業である小規模保育や家庭的保育では，保育士資格を保有していていなくても，講義と保育実習による認定研修を受けることで働けることや，初任保育者は乳児クラスに配属されやすいという報告もあり（三好・石橋，2006 他），乳児保育についての専門的な知識や技術，判断や経験が未熟な保育者が乳児保育に携わる可能性があることがわかっている。乳児保育の質を担保する観点からも，乳児保育の直接的な内容や保育の専門職のあり方が問われている（大方・玉置・McMullen，2014）。

また，我が国では，保育者の人材確保が急務となっている（こども家庭庁「保育士の有効求人倍率の推移（全国）」，2024）。現場では，経験年数 10 年未満の比較的経験年数の浅い保育士が約半数を占める（厚生労働省「平成 27 年社会福祉施設等調査」）など，保育者の早期離職の課題も抱えている（松尾，2017 他）。これらのことから，初任保育者が現場でどのような経験をし，子ども観や保育のスタイルを獲得していくのかを明らかにし，養成段階からどういった教育が必要かを検討する必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究では，乳児保育を担当する初任保育者の子どもの捉え方や保育意識を明らかにし，子ども観や保育観の形成にどのように影響しているのかについて検討を行う。

研究 1・2：子どものイメージに関する先行研究では，学生は，乳児に対して肯定的なイメージをもっていること（永井，2016 他），保育実習前後ともに子どものイメージは，「かわいらしさ」が最も多いこと（松永ら，2002）などが報告されている。しかし，「かわいらしさ」を感じることが，保育にどのような影響を与えているのかについては，よくわかっていない。そこで，本研究では，子どもを捉える一つの視点として，子どもの「かわいさ」に着目することとした。

研究 3：初任保育者は，保育の現場で様々な経験を通じて自らの保育者意識や保育観を形成していくことがわかっている（渡辺，2006；内藤ら，2017；浅井・浅井，2021 ほか）。

保育の中で「喜び」を感じることは，保育への動機づけや満足度に直結し，長期的なキャリア形成に影響を与える。一方で「葛藤」は，保育の課題や難しさを示し，これを乗り越える過程で保育者としての成長やスキルアップが促される。さらに「安心感」は，保育者が自信を持って保育活動を行うための基盤となり，子どもとの信頼関係構築に不可欠である。しかし，保育者が一年間を通して，保育の場で経験している意識の内実についてはあまり明らかになっていない。

そこで，本研究では初任保育者の保育意識を保育中に感じる「喜び」，「葛藤」「安心感」に着目することとした。

研究 1 では，初めての保育実習で乳児クラス（3 歳未満児クラス）を担当した学生にアンケート調査を実施し，子どもイメージの変容と学生が捉える子どものかわいさについて明らかにすることを目的とする。研究 2 では，初任保育者を対象に 1 年間インタビュー調査を行い，初任保育者が捉える子どものかわいさと保育者の経験年数による違いについて明らかにすることを目的とする。研究 3 では，0 歳児クラスを担当する初任保育者のインタビュー調査（研究 2）から，初任保育者が感じる「喜び」と「葛藤」における保育意識の構造について，また，保育者が職場において感じる心の安心感の意識プロセスの変容について，SCAT 分析により明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

研究 1：保育実習で乳児クラス(3 歳未満児)を担当した学生の子どものかわいさについての検討

事前事後の共通項目として，「3 歳未満児イメージ」を尋ねた。事後調査では，「保育実習時の配属クラス」，「保育実習中の 3 歳未満児のかわいさ認識」に加え，どういう所をかわいいと感じたか，そのエピソードを回答するように求めた。事前事後調査から得られた 3 歳未満児イメージについては，保育実習の前後において，それぞれの項目の尺度得点を算出し，2 群間の平均値の差の検定するため t 検定を行った。事後調査の子どものかわいさに関するエピソードは，意味内容ごとに分けて切片化して，ラベルを作成した。その後，第一筆者と第二筆者で協議しながらラベルを意味内容ごとにグループ分けし，最終的に子どもの言語表現と非言語表現の二つのカテゴリーに分類し，検討を行った。

研究 2：乳児保育を担当する初任保育者の子どものかわいさについての検討

調査対象は，公立，私立のこども園及び保育所の乳児クラス（3 歳未満児）を担当する女性保育者とした（1 年目保育者 11 名。2 年目保育者 9 名。3 年目保育者 3 名（のべ人数））。4 年制大学を卒業後正規保育者として働いた 1 年目保育者と 2 年目保育者を対象に 1 年間に 4 か月毎（7 月（Ⅰ期），11 月（Ⅱ期），3 月（Ⅲ期））に，対面及びリモートで半構造化インタビューを実施した。インタビュー時間は，1 人 1～1 時間半であった。インタビュー内容は，園やクラスでの

子どもの様子や自身の思い，気になっていること，嬉しかったことなどである。インタビューはICレコーダーで採録し，その後逐語録を作成した。
　調査で得られたデータから，かわいさについて語られたエピソードを分析対象とした。エピソードは，意味内容ごとに分けて切片化して，ラベルを作成した。その後，第一筆者と第二筆者で協議しながらラベルを意味内容ごとにグループ分けし，最終的に子どもの言語表現，非言語表現，その他に分類し，検討を行った。

研究3：0歳児クラス担当保育者の保育意識についての検討
　調査対象は，公立，私立のこども園及び保育所の0歳児クラスを担当する女性の初任保育者とした（2名：保育者A・B）。研究2の調査で得られた保育者A・Bの逐語録をデータとし，質的データ分析手法のSCAT（大谷，2019）を用いて分析した。まず，保育者Aの「喜び」と「葛藤」に関する語りを分析対象とし，保育者意識の構造について検討を行った。次に，保育者Bの職場で感じる心の安心感に関連する語りを分析対象とし，保育者の意識プロセスの変容について検討を行った。

４．研究成果
(1)保育実習で乳児クラス（3歳未満児）を担当した学生の子どものかわいさについての検討
　初めての保育実習で学生は，3歳未満児をかわいいと感じていた。学生の3歳未満児イメージの変容については，保育実習後に「おもしろい」などの接近感情がより強化され，「たいへんな」などの回避感情は軽減されていることがわかった。また，初めての保育実習の中で子どものかわいさを捉える特徴的な視点として，学生は，子どもの言語表現や非言語表現などの情報をその子のかわいさと捉えていた。また，子どもの発達段階によって，かわいさの手がかりは異なる可能性があることもわかった。そして，状況に合わせた子ども特有のしぐさや子どもからの「私」に向けたふるまいにかわいさを感じていることもわかった。学生は保育実習での直接的な触れ合いの経験を通じて，3歳未満児の有能性を感じたり，成長過程を実感することで子どもをより肯定的に捉えるようになったこと，また，かわいさの手がかりを増やしたり，これまで持っていたかわいさの捉えを修正しながら子どもの理解を深めていることがわかった。そして，保育実習中や実習後に，子どものかわいさについて保育者や学生間で話し合う場の存在が，学生の子ども理解をさらに深め，子どもを観る力を育む機会となっていることが明らかとなった。

(2) 乳児保育（3歳未満児）を担当する初任保育者の子どものかわいさについての検討
　1年目と2年目保育者は，子どもをかわいいと感じており，対象者全員から子どものかわいさに関するエピソードが確認できた。1年間の変容として，子どものかわいさエピソードは，Ⅲ期にかけて「言語表現＋非言語表現」が多くみられ，保育者が感じる子どものかわいさは，子どもの発達とともに変化することがわかった。保育者と子ども，子どもと子どもなど，互いにやりとりがある中でかわいさを感じ，特に「私に向けて」のやりとりにかわいさを感じていた。
　1年目保育者は，子どものかわいさから，ポジティブな感情を喚起させたり，子ども理解が深まり，子ども観に影響を与えたり，担当クラスの保育者間や保護者との関係性が良好になるなど保育環境にもポジティブな影響を与えている可能性が示唆された。一方で，2年目保育者には，子どもの認知発達や感性などに触れたエピソードもみられ，子どものもつ世界を理解しながら，子どもの発想に寄り添う様子もみられた。つまり，保育経験を積むことで，子どものかわいさを捉える視点が変わる可能性があることが示唆された。以上から，初任保育者の子どもの「かわいさ」への気づきは，初任保育者の子ども観や保育観の形成にも影響を与えている可能性があることが示唆された。

(3) 0歳児クラス担当保育者の保育意識についての検討
　保育者Aが1年目に語った1年間における「喜び」と「葛藤」の意識は，0歳児保育の特徴である愛着形成を基盤とした子どもとの関係性のなかに現れる傾向があることがわかった。また，大学時代までに構築された子ども観や保育観が，「喜び」や「葛藤」の意識に影響を与えている可能性が示唆された。
　保育者Bが1年目に語った1年間における心の安心感の構成概念は，【自己成長】，【フィードバックと評価】，【他者との関係性】，【組織文化と風土】，【子どもの存在や成長】の5つのカテゴリーに分類でき，これらは，1年間を通して確認された。
　特に，Ⅰ期では，初任保育者の育成支援を目的とする組織化された支援制度（【組織文化と風土】）に，より心の安心感が担保されていた。Ⅱ期では，子どもや担当保育者との関係性（【他者との関係性】）が深化するなかで，乳児の有能性（【子どもの存在や成長】）へ気づく心の余裕が生まれ，保育者Bが保育者として，適応できていること（【自己成長】）に，安心感を得ていた。Ⅲ期では，保育への充実感（【自己成長】）と肯定的に捉える子どもの姿を担当保育者と共有し合える関係性（【他者との関係性】）に，安心感を得ていていた。
　また，これらの安心感が，初任保育者に保育の楽しさや面白さなどの気づきを与え，初任保育者の保育観の形成に影響を与えていることが示唆された。

(4)研究成果のまとめ

以上の結果を踏まえ，初任保育者の子どもの捉え方と保育意識について，以下の意義が見いだされた。

まず，これまであまり重要視されていなかった子どもの「かわいさ」への捉えに着目し，経年変化をみた。その結果，学生が保育実習で感じた「かわいさ」の捉えは，保育の喜びであり，保育者という職業意識を支えるものになり得る可能性があることがわかった。このことから，授業や保育実習などを通して学生が捉える子どものポジティブな側面を大切に育てることが，保育者養成にとって重要であることを示すことができた。

次に，初任保育者が保育の中で感じる子どもの「かわいさ」は，保育者の子ども観だけでなく，保育観の形成にもポジティブな影響を与えていた。また，保育経験を積むことで，子どものかわいさを捉える視点は変化する可能性を示すことができた。

さらに，初任保育者の保育意識は，愛着形成を基盤とした子どもとの関係性の中で現れる傾向にあり，担当保育者間で，保育について語り合う風土が，心の安心感となっており，初任保育者の保育観の形成に影響を与えている可能性を示すことができたことである。

これらの結果は，保育の離職防止や，保育の質の向上にむけた研修のあり方にとっても重要な意義をもつと考える。

引用文献

三好年江・石橋由美（2006）初任保育者の担当クラスと子どもの遊びにかかわるときの問題意識からみた保育士養成校の課題．新見公立短期大学紀要 27，111-116．

大方美香・玉置哲淳・メアリー・ミクマレン（2014）アメリカにおける乳児保育の現在と今後　大阪総合保育大学紀要．9，301-315

厚生労働省「平成 27 年社会福祉施設等調査」

松尾由美（2017）保育士の早期離職を防ぐためのキャリア教育 ―キャリアプランニング能力の育成を目的とする問題解決シミュレーションゲームの提案―，Informatio：江戸川大学の情報教育と環境．14，19-22

永井久美子（2016）学生の乳児に対するイメージの分析(1)－保育専攻学生における学校別調査を通して－，神戸女子短期大学紀要論攷．61，99-105．

松永しのぶ・坪井寿子・田中奈緒子・伊藤嘉奈子（2002）保育実習が学生の子ども観，保育士観におよぼす影響．鎌倉女子大学紀要 9，23-33

渡辺桜（2006）保育における新任保育者の「葛藤」の内的変化と保育行為に関する研究--全体把握と個の援助の連関に着目した具体的方策の検討.

内藤知美・井戸ゆかり・小泉裕子・大野和男・田爪宏二（2017）新任保育者１年目が抱えるクライシスとその構造：「保育者になる」から「保育者である」への移行に着目して 東京都市大学人間科学部紀要 8,37-45.

浅井かおり・浅井拓久也（2021）保育者のキャリア形成の過程に関する研究（1）東京未来大学研究紀要 15，1-12.

大谷尚（2019）質的研究の考え方―研究方法論から SCAT による分析まで．名古屋大学出版会

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 山口香織・中川愛	４．巻 43
２．論文標題 保育実習前後における学生の３歳未満児を捉える視点 －ポジティブな捉え「かわいい」に着目して－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 神戸親和大学児童教育学研究	６．最初と最後の頁 143-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 中川愛・山口香織
２．発表標題 ３歳未満児を担当する２年目保育者が感じる子どものかわいさ
３．学会等名 日本発達心理学会第35回大会
４．発表年 2024年

１．発表者名 中川愛・山口香織
２．発表標題 3 歳未満児クラスを担当する初任保育者が感じる子どものかわいさ
３．学会等名 日本家政学会関西支部第45回研究発表会
４．発表年 2023年

１．発表者名 山口香織・中川愛
２．発表標題 初任保育者が職場で感じる安心要因とキャリアパス ―0歳児担当M保育士の語りの分析から―
３．学会等名 第19回日本子ども学会学術集会
４．発表年 2023年

１．発表者名 中川愛・山口香織
２．発表標題 保育学生が乳児のかわいさを捉える視点-保育実習におけるエピソード分析に着目して-
３．学会等名 日本発達心理学会第34回大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 中川愛・山口香織
２．発表標題 初任保育者の乳児を捉える視点の変容と要因を探る（１）－ 計量テキスト分析からの検討 －
３．学会等名 日本保育学会第74回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 山口香織・中川愛
２．発表標題 初任保育者の喜びと葛藤に関する意識プロセス－0歳児担当ユイ先生の語りの分析から－
３．学会等名 日本教育実践学会第24回大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山口　香織 (YAMAGUCHI Kaori) (40411938)	神戸親和大学・教育学部・准教授 (34514)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関